

(様式第4号)

上田市産婦人科病院運営審議委員会 会議概要

1 審議会名	上田市産婦人科病院運営審議委員会
2 日時	平成27年10月13日 午後1時30分から午後2時45分まで
3 会場	上田市立産婦人科病院 多目的室
4 出席者	森会長、山岸副会長、宮下委員、荒川委員、金子委員、徳永委員、森委員、吉池委員
5 市側出席者	神代健康こども未来部長、廣瀬院長、村田院長代理、小林事務長、山崎課長、柳沢師長、塚田副師長、細川補佐(事務局)
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	*人 記者 *人
8 会議概要作成年月日	平成27年10月23日

協 議 事 項 等

1 開 会 (山崎課長)
2 あいさつ (神代部長)
3 委員及び事務局職員紹介
4 会長副会長選出 森会長、山岸副会長を選出
5 協議事項
(1) 平成26年度産婦人科病院事業決算及び平成27年度上半期の業務量について
・資料に沿い事務局から概要を説明
・以降、質疑及び協議
(委 員) 非常勤医が年々減少しているが、体制が定着して長く勤務してもらえる状況ができたということか。
(事務局) 非常勤医については様々なところから来ていただいていた。主に週末の当直、病棟業務をお願いしていることに変わらないが、お願いする先生が定着してきている。
(委 員) 常勤の医師の年齢や負担の度合いを考え、この規模の病院で常勤2名の体制でよいのか。人件費の確保を含め市の考えはどうか。
(事務局) 医療法で定められる常勤医は3名が必要。自治体病院協議会や民間の紹介業者にも登録し人材の確保に努めている。また、名誉院長のつながりで全国の大学病院に向けても医師の紹介をお願いしている。当面は非常勤医師の力を借り、安全で安心な医療の提供に努める。
(委 員) 12年委員をやって、10年ほど前の信大からの提案、常勤医の退職など上田市、病院にとって大きな流れがあった。正常分娩を中心で行うのであれば黒字は当たり前。信州上田医療センターに負担が掛かっている。健康福祉、地域医療、保育、学校教育など様々な場面で市にはお世話になっている。(臨床事例から)特殊事例の妊婦について地域医療の分野の力不足があり、地域外にお願いしなければならなかった。その時にも市の保健師、救急の方に助けてもらった。感謝している。しかし、「上田市未来っ子かがやきプラン」の中で触られている産科医の確保については81ページ中たった2行半である。平成17年に信大から産院を廃止し、長野病院と統合という提案があった。私は当然であると考えた。しかし、産婦人科医の確保の現実を履き違えたと思える決定が3週間ほどの期間でなされてしまった。地域の周産期医療を守る千載一遇のチャンスを逃してしまったと思う。提案を受けた上田市民の側からみれば大学からの押し付けと考えた人もいたと思う。大学側は大学側で長野県の産婦人科医療提供の現場が危機的な状況であることがなぜ上田市ほどの自治体に理解してもらえないのかという思いだった。インターネットの普及もありたくさんの賛否意見が飛び交った。双方がボタンをかけ違えてしまったことで現在に至る影響は大きい。信大を含む県内産婦人科の現場と上田市の対立は大きいと感じている。隣同士で正

常分娩と異常分娩と分けて負担を片方に掛けている。地域で育てた医師が戻ってくるような現状を作ることが必要。

(委員) 隣の院長になり7年目に入った。産婦人科医の確保は大きな問題の1つだった。一度失ったものを獲得するのはとても大変なこと。過去の経過をお聞きしたが、今後について市民全体で考えていかないといけない。当院も再開したが、安穩としてられない。いろいろ手は尽くしているが、上田市出身の産婦人科医が上田市に帰ってきて地域で働こうという気持ちを持ってもらうことを考えていくことが必要。奥が深い問題。魅力のある病院、上田市を作っていくことを考えないと医師確保はうまくいかない。市もいろいろ考えてはくれているが、手段が有効に回るようにして欲しい。そうでないと同じことがまたいつ起こるか分からない。

(委員長) ありがとうございました。信大との信頼の再構築を行政にお願いしたい。ほかに質問はありますか。無いようなので私から、医師会へ報告する必要があるので、新基準の決算ではなく今までの基準であればどうだったかの資料をお願いしたい。

(事務局) 分かりました。

(2) 新公立病院改革プランについて

・資料に沿い、事務局から概要を説明

(委員) プランを立てていく上で一番問題となる点は何と考えているか。経営的なものなのか人的確保なのか、あるいは上田市また地域全体の構想ということであるが。

(事務局) 実現可能な計画とすることが求められている。医療スタッフの確保、そのための収入の確保の実現が課題と考えている。地域医療構想に沿ったプランと言うことであるため、県の策定する地域医療構想にこの地域の周産期医療についてがどのように盛り込まれるのかにより作成の方向が変わってくる。地域医療構想の策定状況を注視しつつ、策定できる部分を先行して行っていく。

(3) 旧産院の建物等について

・事務局から説明

(委員) 災害からの避難所として利用することはどうか。

(事務局) 地域の避難所は現在は西部公民館であるが旧警察署に移転することに伴い避難場所を含めて考えていると思う。

(委員) 上田市は健福祉都市の宣言もしている。そういう考え方も特徴ある1つの案としてどうか。

(事務局) 現在は説明のとおりであるが、ご意見として他の関係部局に知らせ協議してまいりたい。

(4) その他

・なし

6 その他

(委員) 資料提供あり 信州大学金井教授からの「上田市民の皆様へ」(平成17年当時のもの) 地域産婦人科医を含めた医師確保について、様々な立場で考えていただくもの。地域の分娩取扱いは行政だけで考えるものではない。地域の分娩医が高齢化している現状から上田市は分娩医の限界集落であると考えている。

7 閉会